



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

さらに深刻な状況へ。
感染拡大する新型コロナウイルス

今月も新型コロナウイルスの話です。もういいと思われる方もおられるかもしれませんが、残念ながら、感染は更に深刻な状況になり、パンデミックとなりました。感染地の中心も中国からヨーロッパ、アメリカへと広がっています。

そして日本も毎日1000人、2000人と感染者の増加が報告され、オーバーシュートがすでに始まっているのかもしれない。コメディアン志村けんさんも亡くなられました。発症してから2週間というあつという間の出来事でした。ご冥福をお祈りいたします。

東京や大阪などの都市部では、不要不急の外出をしないように呼びかけています。この要請に添えて多くの人は自宅で過ごしていますが、若者を中心に歩いている人も多く見られます。このような対応の違いは何から生まれてくるのでしょうか。

感染の過小評価は禁物。
周囲への影響を考えて

それは当事者意識の欠如と自分の行動が周囲へ与える影響を考えることのできない想像力の欠如、自分は大丈夫だろうと考えるバイアスです。

自分は若いから感染しても軽くすむという考えは、まだ感染していない人の病気に対する過小評価です。実際に感染すれば若くても0・2%の確率で死亡するとなると、途端に死が現実味を帯びて他人事ではなくなりません。

たとえば、軽く回復しても感染時に自分の家族、父や母、祖父母に2次感染させれば、重大な結果を招く可能性は遙かに高くなります。

経済ダメージは政治力で。
未知の感染症を最優先に

また、都市封鎖（ロックダウン）や外出制限をするなど経済的なダメージが大きいと反対する人も多くいますが、治療法のない新型コロナウイルス感染症は感染すれば一定の割合で死亡者が出ます。

一方、経済的なダメージは政治的な施策によって減らすことが可能です。人の力によって対応できることとできないことを明確にすれば、人ではどうしようもないことを最優先にするのは当然のことと思います。

感染拡大防止へ。意識を持つ
感染予防の取り組みを

4月1日現在、鳥取県にはまだ感染者は出ていません。しかし、これだけ都市部で多くの感染者が出ており、新学期、就職といった人の移動の激しいときです。いづれ感染者が出ることは確実です。

防ぎようがないからと放置してはオーバーシュートが起こり、人口の70%から80%が感染して終

息に向かうという最悪のシナリオになります。

鳥取県の人口を50万として、70%が感染し、感染者の3%が死亡すると想定した場合、実に1万5000人が死亡することになります。各人一人一人が外出、移動を控え、感染予防を行えば、例えば移動が50%減少すれば、死亡する人が50%減るかもしれませんし、もっと効果上がるかもしれません。

未知のウイルスのため効果を確実に予測することはできませんが、自分ができることはすべて行うという気持ちで取り組む必要があります。今こそ民度が試される時です。

